

いずみさの 教 育



問合先
学校教育課

社会全体で子どもを育てる教育へ

4月から、平成29年3月に告示された学習指導要領の下で編成した教育課程をすべての小学校において本格的に実施することになります。（中学校は来年4月から実施）

これまで、それぞれの学校では、在籍している子どもの実態などに合わせ、どんな子どもに育ってほしいかを学校の教育目標や、めざす子ども像として定めており、その目標に向かって日々教育活動を行ってきました。

しかし、これからはそれを学校内だけではなく、家庭や地域の人と十分に共有し、理解していただいた上で、子どもたちが学校で「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、その結果「何ができるようになるか」を明確にしながら、学校が家庭・地域の人との連携・協働することで、その目標の実現を図っていくこととなります。

つまり、子どもたちの教育は学校で行うという考え方はなく、子どもたちの学びの場となるのは、学校を含めた社会全体

となり、その中で子どもたちを育て、その成長とともに見守っていくという考え方は、

来年度、学校教育は大きな変化のある節目の年を迎えることとなります。小学校においては、プログラミング教育の必修化や外国語教育のさらなる充実など、今までに無かったことが導入されることもあり、具体的な教育内容について大きな変化があります。

しかし、私たち大人に必要とされることは、子どもたちを取り巻く社会全体で同じ目標に向かって、子どもたちを育てていくという意識を持つことであり、また、子どもたちがこれから成長していく中で、自分の人生を切り拓いていけるように見守り、時には支援することではないでしょうか。

生き生きとした子どもたちの姿をこれからも見つめられるよう、泉佐野市の教育を社会全体で進めていきたいと思えます。

学校園紹介



特色をいかした取り組み ～大木小学校～



▲スタンドグラスの話

大木小学校は、豊かな自然を背景に、地域の人と保護者との協働の中、少人数の特色を最大限生かしながら教育活動を進めています。2学期の大きな行事として「大木たんけん」がありました。子どもたち一人ひとりが“やってみたいこと”を考え、その課題に沿って大木の町を探検しました。植物や動物に興味を持って大木の町へ歩き出した子、水辺の生き物を捕まえて川へ向かった子、ランプの家でスタンドグラスについて話を聞いた子など、テーマは多様でした。大木の昔の川の様子を聞いたり、カニ採りの網やイノシシ用のわなを見せてもらったりした子もいました。「自分の課題」に向き合うことができたためか、一人ひとりが生き生きと学びに向かっていました。

その後、自分の課題についてさらに詳しく調べ、11月に行った「大木まつり」では、全校児童のまとめの作品が体育館に並びました。「大木まつり」は、地域の人や保護者とのふれあいをテーマにしています。6年生の「大木の歴史発表」、5年生の「地域のみなさんとの【みんなでクイズ】」、4年生の「救急の仕組・消防団の紹介・体験」など、各学年の取組はとても楽しいものでした。大木小学校の行事は、その多くが地域の自然を生かしたものであり、地域のみなさんのご協力があって成り立っています。



▲大木まつり



目標はさらに高く ～中央小学校～

2019年は目標を持ち、人として成長するためにも、みんなで「協働」しながら支え合い学びあってきました。毎朝、校門では「お早うございます」の声が大きく響き、時には立ち止まってお辞儀をしてくれる児童も多かったのですが、「自分から、目を見て挨拶」と目標もさらに高くし、なおも頑張る委員会活動の姿がみられました。また、体験学習や人との出会いを大切し、たくさんのゲストティーチャーを迎えました。27組もの赤ちゃん連れのお母さんが来校した「赤ちゃん登校日」では6年生が子育ての苦労や楽しみを知り、可愛い赤ちゃんといっぱい交流しました。



▲ポッチャの様子

さらに、10月には元全日本バレーボール代表の大山加奈さん、本校卒業生でもある絵本作家のはまのゆかさんとの交流授業や11月には大阪体育大学の曾根裕二さんによるポッチャの指導、チェコの少女合唱団「イトロ」と国際交流をしたり、素晴らしい歌声も聴かせていただくことができました。また、全国から2校という環境活動絵画コンクールで環境大臣賞（学校賞）もいただいたりと、文化的活動や体育的活動の両面で大変実りある年となりました。今年も心に残る体験活動やいろいろな人との出会いの中から学びを深め、チャレンジしていく年として、中央小みんなががんばっていききたいと思えます。



▲環境大臣賞